

春を見つけよう

井上千代子（大網白里市）

日 時：2024 年 4 月 14 日（日）10 時～12 時、天気：晴れ

参加者：22 名（大人 16 名・子ども 6 名）指導員 11 名

担当指導員：佐野由輝 井上千代子



「春を見つけよう」をテーマに実施された。今回も元気で自然大好き親子が参加した。夏を思わせ汗ばむ程だったが、どんな春が見つかるかを楽しみに観察に出発。

寒い時期に冬芽を観察した樹木が今どんな様子か見てみた。休眠状態だった芽が春の暖かさで再び芽吹き、葉や花芽の展開を見て生命が躍動している事が実感でき、また来て見てみたいとの感想があった。



ニガキの葉を初めて味わった人は、苦味が最後まで口に残り、名前も味も印象に残る体験だったようだ。

子ども達の表現能力の豊かさに気づかされた観察会でもあった。例えば、カタクリの花の形を「ウツボカズラをひっくり返したみたい！」ウツボカズラを知っている子が参加している事に、「さすが自然大好き！」と驚きでした。また、コブシの当年枝の中の匂いを「犬のおしっこみたい…」と表現した子がいた。

指導員の反省会で、「犬を飼っていたけど、おしっこの匂い知らない…」となり会話は途切れてしまった…。木の形をジェスチャーで表現する子もいて、あらためて子ども達のいろいろな力に気付かされ、楽しんで参加しているのも伝わってきた。

多くの人で踏み固められた日当たりの良い芝生広場の地面に子ども達に串を刺してもらった。落葉樹の葉や木材チップが積もった場所でも串を刺してもらい、歩き心地の違いを目で見て確かめてもらった。

花を咲かせているウラシマソウを発見した子が、名前の由来を教えてくれたので、そこから雄雌花の違い、授粉の戦略、苞の先端部の役割へと展開できた。

偶然、帯化タンポポを見つけて「なかよしタンポポ」という別名があり、自然にはいろいろな形（多様性）があるのが当たり前と伝える事ができた。タンポポクイズは、観察しながら参加者が正解を見つけてもらうようにした。セイヨウタンポポが、明治以前からあったタンポポを凌ぎ今広範囲に生息している理由を資料を使い説明したが、熱心に耳を傾けてくれた。オオイヌノフグリ、フラサバソウ、イヌノフグリの特徴を写真資料で見てもらったが、NHK朝ドラで話題になった植物なので関心を持たれていた。

参加された皆さんから、子どもを巻き込んで大人達がフォローする形になった、新緑を楽しむ内容がほしかったと感想をいただいた。